

研究テーマ: 音読の声を大きくするにはどうすればよいか。

所属 安芸市立安芸中学校
氏名 堅田 喜生
R G J H 3

【アクションリサーチ I】

- 1 研究の背景
 1. クラスの紹介
今回のプロジェクトの対象クラスは、男子15人、女子13人の合計28人、明るい雰囲気で、積極的に発表できる生徒もいる。
 2. 日頃の授業の様子
全体としては、楽しい雰囲気です。授業ができていて、班別の活動もよくできるが、習熟度診断テストでは理解が不十分と診断される生徒もいる。
 3. 課題・悩み
班別の時はある程度言えても、クラス全体に向けて発表するときには声が小さくなったり、正しく読めなかったりする生徒が多い。また、活発に発表できる生徒の中にも、発音やイントネーションが正確にできないものもいる。
- 2 リサーチクエスト
音読の声を大きくするにはどうすればよいか。
- 3 予備調査
 1. 授業観察の結果
ほとんどの生徒は少人数での練習の時は声に出して英文を読んでいるが、クラス全体では声が小さくなる傾向がある。
 2. 生徒の英語学習意識
学習に積極的に取り組む生徒が数人いる。全体的には、取り組もうとする気持ちはあるが、発音に自信がない、また、他の人の前で読むのは恥ずかしい、間違うのがいや、という意識もある。
 3. 英語力を示すデータ
CRT（4月）では、全国比100に近い項目がいくつかあるが、その他の内容はやや低い。習熟度診断問題（実力テスト）は、全体として向上しつつはある。
- 4 仮説の設定
仮説1 一人で読むときの声を大きくすることがまず第一である。
仮説2 少人数のグループでお互いに読みあう場面を多くすれば、音読に対する抵抗感が少なくなる。
仮説3 少人数のグループで読むときに大きな声が出せるようになれば、全体によく聞こえる声で読むことができる。
- 実践の方法
 1. 全体でCDや教師の後に続いての読みの練習をした後で、個人での読みの練習時間を確保する。
 2. 班体制で、ページを小分割して、班員が少しずつ分担して読みの練習をする。
 3. 班内で、読む側と聞く側に分かれて読みの練習をする。
 4. 班の代表が、クラス全体に向けて読みの発表をする。
- 5 計画の実践
 1. 全体でCDの音声や教師の後に続いての読みの練習をした後で、個人での読みの練習時間を確保する。練習時間は、1分、2分、3分のうち文章の長さに応じて指示する。
 2. 班体制で、ページを小分割して、班員が少しずつ分担して読みの練習をする。会話形式のものは、登場人物ごとに分担する。物語形式のものは、段落を基本として分担する。読み方のわからない語がでてきたときには、お互いに教え合いをさせる。
 3. 班内で、読む側と聞く側に分かれて読みの練習をする。はっきりと大きな声が出るかどうかを第1にチェックする。正しい発音と、英語らしいイントネーションができているかは、お互いにチェックさせる。
 4. 班の代表が、クラス全体に向けて読みの発表をする。大きな声で読めることをまず第1の目標としておき、発音やイントネーションは始めはあまり気にしないようにする。
- 6 実践の結果
 1. 全体練習はよく声が出ている。その後の個人での練習もそれぞれよくやっていた。
 2. 班で練習するときも、個人差はあるがよく読める生徒が多かった。
 3. 班の代表で読む場合は、全体に向けて読むという心構えができていて、おおむねよく読めていた。ただし、生徒によっては、まだ声が小さいものもいた。
- 7 結果の検証
 1. 個人、班、全体のパターンが定着するとスピードアップしてできる。個人での練習時間は短時間で集中させるようにするのがよい。時間の延長を希望する場合は、挙手で意思表示をさせる。はじめから長めの時間を与えると、かえって集中できないことが多い。
 2. 班で練習するときには、読み方がわからないまま放置していたり、他のことをしたりしないように、教室内を巡回してきちんと練習していることを確認することが大切である。
 3. 班の代表を決めるのに時間がかからないように、決め方を工夫する必要がある。決まりさえす

れば、がんばって読もうとするので、声を出して読むのが苦手な生徒も励ましてやる。

【アクションリサーチⅡ】

1 リサーチクエスション

音読の声を大きくするにはどうすればよいか。

2 予備調査

1. 授業観察の結果

ほとんどの生徒は少人数での練習の時は英文を読めているが、クラス全体では声が小さくなる生徒がまだいる。

2. 生徒の英語学習意識

学習に積極的に取り組む生徒が増えてきている。発音に自信がなくても、とりあえず発表した生徒も増えてきている。ただし、他の人の前で（聞いているところで）読むのははづかしい、という生徒も残っている。

3. 英語力を示すデータ

定期テスト（中間、期末）や習熟度診断問題（実力テスト）は、全体として少しずつではあるが向上しつつある。中には格段に伸びてきている生徒もいる。

3 仮説の設定

仮説1 基本となる文を繰り返し読むことにより、音読に対する抵抗感が少なくなる。

仮説2 基本となる文を暗記することにより、音読に自信が付き、大きな声が出る。

仮説3 新出語句、連語の読み方がはっきりわかれば、全体によく聞こえる声で読める。

4 計画の実践

1. 1年生の時に学習した基本文を1枚のプリントにまとめ、1文ずつ読む練習をする。負担を軽くするために、1回に5文程度とする。

2. 班体制で、お互いに読み、聞く時間をとる。読み方のわからなくなった語が出てきたときには、お互いに教え合いをさせる。

3. 読む練習ができれば、次に、暗記し、それを書き取る練習をする。意識付けのために、次の時間に暗記した基本文のテストをする。

4. 新出語句、連語の読み方がはっきりわかるように、単語カードを使い、全体で読む練習をした後で、クラスの3分の1程度の生徒に一人ずつ読ませる。その後、文章を読む練習をする。

5 実践の結果

1. 1年生の時に学習した基本文は、読み、暗記、書き取りともに良くでき、中学校で学んだ英語の復習もかねて、たいへん意欲的にできた。ただし、課が進むにつれて、だんだん難しくなってきた。書き取り、暗記の順に達成率が悪くなってきた。

2. 班で練習するときは、よく読める生徒が多いが、暗記や書き取りは個人の作業になりがちなので、意欲を持てる生徒とそうでない生徒との差がでやすかった。

3. 暗記した基本文の書き取りテストは、読む声が大きいほど文がよく書けるという関係があるように見えた。

4. 新出語句等については、読みにくいものも増えているので、ていねいに確認する必要がある。

6 結果の検証

1. 1年生の基本文に帰ってみることで、短い文を自信を持って読むことができ、大きな声で読むことにつながることができた。長い文でも、小さなまとまりごとに区切って読む意識が持て始めた生徒が多くなった。

2. 班での練習では、読みの他に、暗記、書き取り、新出語句等についても、別に時間をとって班競争を仕組んだりすれば、全体で盛り上がってよいのかも知れない。

3. 基本文の書き取りテストは、読みに自信をつけるためというよりは、中学校で学習した英語の復習として取り組む生徒が多かった。3年生であり、受験を控えた生徒たちにはよい勉強になったが、音読に自信をつけるためという目標にかなっていかどうかははっきりしなかった。

7 成果と今後の課題

1. 小グループ（班）での読みの練習は、お互いに読み方がわからないところを教え合ったり、聞きあったりできるので、よい成果が見られる。友だちに聞く方が教師に質問するよりも聞きやすいようだ。グループ内で解決できないところを教師に聞くようにすると、質問内容も整理される。

2. 大人数（クラス）に向けての読みは、なかなか大きな声が出ない生徒がいる。自信がない、あるいははづかしいので声が出ない生徒が自信をつけるために、自分自身で判断してもう一度はじめからやり直す、フィードバック形式の練習方法があるとよいかもしれない。

3. 1年生の時に学習した基本文を読むことによって、3年生の内容が難しいと感じている生徒たちにも、これならできるという意欲を持たせることができた。中学校で学んだ英語の総復習の一環としても役立った。ただ、課が進むにしたがって内容が増えてくるので、何とか意欲を持続させるために、ゲーム形式にするとか、班競争とか、やり方を工夫する必要がある。

4. 1年生の基本文の暗記は良かった。単語をバラバラに覚えるのではなく、英語の基本的な文の形を丸暗記させたほうが、英語の運用力を高めるのに役立つと考えられるが、基本文も語句、連語等も、個別、班、全体と展開する上で、効果的な時間配当にもっと工夫が必要である。

5. 教科書の文章を音読したので、教科書の勉強には役立ったが、音読にふさわしい文章ばかりとは言えない面もある。読んでいて楽しい英語、英語のリズムが自然に身に付くような英文なら、もっと多くの生徒が、もっと長く意欲的に取り組めたのではないかと。教科書の内容に関連して読んで楽しい英文を見つけることと、それを楽しむ時間をどう確保するかという課題がある。